









Department of Child Psychiatry, Iwate Medical University Hospital

# 当科について

2011年に発生した東日本大震災後の子どものこころのケアとその支援者支援、研修・啓発、研究を中長期にわたって担う全県的な拠点として、2013年に県内初の児童精神科専門医療施設「いわてこどもケアセンター」が岩手医科大学矢巾キャンパス内に開設されました(県委託事業)。矢巾センターでの診療のほか、宮古、釜石、気仙地域における週1回の巡回診療(現在はリモート診療に移行)を行ってきました。



岩手医科大学附属病院が2019年9月に矢巾町に新築移転し、児童精神科が新設され、矢巾センターでの診療が岩手医科大学附属病院児童精神科へ引き継がれています。なお、移転に伴い、大学附属病院本院では国内初となる児童精神科専用病棟「子どものこころ病棟」が新設され、子どものトラウマ関連の専門治療をはじめ幅広く地域のニーズに沿った診療を行っています。

児童精神科における治療は、外来治療が中心ですが、症状が深刻化して家庭生活が困難になった子どもには、入院治療を導入します。入院後は、精神医学的な専門治療に加え、訪問学級による学習保障も行っています。退院が決定した際には、地域や学校などの関係機関と協力し、円滑な家庭復帰・学校復帰のための援助にあたります。

子どもこころ病棟(18 床・閉鎖)には、男子部屋 6 室、女子部屋 6 室、ハイケアユニット 4 室、保護室 2 室の全 18 室あります。精神科医、看護師、臨床心理士 1 名(公認心理師)、精神保健福祉士、作業療法士、薬剤師、医療事務などの多職種のスタッフが配置されています。スタッフ同士の情報共有や、入院患者の治療・支援方針を話し合うため、週 1 回、多職種カンファランスを実施しています。

毎朝のドクターミーティングでは、一人ひとりの子どもの治療の進捗や方針について確認し、よりよい ケアの提供を目指して日々研鑽を積んでいます。

入院は原則として 15 歳以下(中学生以下)の子どもを対象としています。入院患者の診断は、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症などの発達障害、心的外傷後ストレス障害、不安障害、適応障害、うつ病、統合失調症、摂食障害などがあげられます。近年では、インタネット・ゲーム障害が注目されており、その治療のために入院する患者もいます。病棟内では、男子会、女子会、キッズミーティングなど、それぞれの年代と性別に分けて、子どものプログラムを実施しています。また、物つくり、話し合い、映画鑑賞など様々なアクティビティを行っています。

レジデント募集中! お問い合せは、 神経精神科学講座へ







## ● 診療の対象

児童精神科では、幼児期から 18 才(高校卒業) 頃までの 方を対象に精神科領域の診療を行っています。





# 主な対応診療項目

- ♦ 精神科・神経科領域の一次診療
- ◇ 睡眠障害
- → 神経症性障害(強迫性障害、不安障害、 パニック障害など)
- ◇ 摂食障害(拒食症・過食症)
- ◇ 心的外傷後ストレス障害(PTSD)
- ◇ 思春期のうつ病または躁うつ病
- ◇ 統合失調症・精神病性障害
- ◆ 発達障害(自閉症、ADHD、学習障害など)
- ◇ 物質使用障害
- ⇒ チック症・トゥレット症候群
- ◇ 身体疾患・身体症状に関連する精神疾患
- - ◆ 精神療法
  - ◆ 臨床心理・神経心理学検査
  - ◆ 精神科ショート・ケア

# 当科の特色 トラウマ治療について

当科では特に子どもたちのトラウマ関連障害の診断・治療に力を入れています。「要治療」レベルのトラウマ関連症状を呈する子どもに対し、一般的な児童精神医学的対応に加え、欧米のガイドラインでは現段階で子どものトラウマ関連障害への第一選択治療とされているトラウマフォーカスト認知行動療法(Trauma-Focused Cognitive Behavioral Therapy: TF-CBT)を実施しています。当科には、国内で数少ない日本人トレーナーを有し、非常に高い水準でのスーパービジョンを受けながら医師、心理士らが外来および入院治療の中で TF-CBT を行っています。

## TF-CBT について

TF-CBT は、子どもの PTSD 症状だけでなく、トラウマに関連したうつや不安症状、行動上の問題、恥や罪悪感といった感情、社会生活能力などに対しても有効性が認められています。また、養育者を治療に組み入れることで、養育者自身の抑うつ感情や PTSD 症状、養育能力や子どものサポート機能の向上にも効果を発揮します。

トラウマに焦点化した、認知行動療法、アタッチメント理論、発達神経生物学、家族療法、人間主義的治療の原則が統合された構成要素に基づく治療プログラムで、子どもの治療、親の治療、合同セッションで構成されています。この治療によって、子どもと養育者が、トラウマ体験の記憶を適切に処理し、トラウマに関連する非機能的な認知や思考、コントロール不全に陥っている感情、不適応的な行動を、うまく管理できるようになることを目標としています。

# TF-CBT:親と子の治療のしくみ - CBT:親と子の治療 - 心理教育 - スキル形成 - スキル形成 - エクスポーシャー/ 認知処理 - 合同セッションの準備 - 合同セッション 家族セッション

